2010429169

目次

凡例
前書

第一部　前近代の大同思想

第一章　『礼記』礼運篇大同章の基礎的考察……3
はじめに……3
第一節　原典『礼記』礼運篇の考察……7
第二節　大同思想と老子思想混入説……16
第三節　墨家思想と大同思想……22
第四節　礼運篇の錯簡説……29
第五節　社会文化史から見た大同思想……33
第六節　新出資料からみた大同思想……37

おわりに……43
付録　康有為「礼運注」の大同思想……44
第二章　君主専制政治下の大同思想——黄宗羲「両異人記」考——……49
はじめに……49
第一節　黄宗羲「両異人記」のテキストについて……53
第二節　「両異人記」第一段の検討、背景について……59
第三節　「両異人記」第二段、徐某の試み……62
第四節　「両異人記」第三段、朱舜水の業績……67
第五節　「両異人記」第四段、黄宗羲の感慨とその記録の意味……72
おわりに……74
付録　康与之「昨夢録」の大同思想……78

第二部　康有為大同思想の成立

第一章　王韜の大同思想……89
はじめに……89
第一節　王韜の経歴と大同思想の位置……92
第二節　王韜の大同思想の再検討……98

第三節　王韜の思想的背景の検討……110
おわりに……119
第二章　陳虬の大同思想――『治平三議』の視野から――……123
はじめに……123
第一節　陳虬の略歴と『治平三議』の位置……125
第二節　『治平三議』の「宗法議」……133
第三節　『治平三議』の「封建議」……139
第四節　『治平三議』の「大一統議」……144
第五節　「大一統議」の大同思想の性格……149
おわりに……155
第三章　康有為「大同思想」の成立とその特質……158
はじめに……158
第一節　康有為『大同書』成書問題の整理……161
第二節　康有為「大同思想」の着想とその背景……169
第三節　宣伝された康有為「大同思想」の内容……182
第四節　康有為「大同思想」のヒントと独創……194
第五節　康有為「大同思想」と家族の問題……209
おわりに……226

付録　角田勧一郎「康有為氏の大同大平論」……230
第四章　康有為の思想資源――『日本書目志』を中心に――……243
はじめに……243
第一節　『日本書目志』の成立について……245
第二節　『日本書目志』の構成について……249
第三節　『日本書目志』の哲学について……257
第四節　『日本書目志』の理学について……266
おわりに……273
第五章　康有為から梁啓超へ……276
はじめに……276
第一節　出会いの記録の検討……278
第二節　康門の一番弟子・陳千秋について……283
第三節　万木草堂の弟子と教育……289
第四節　康梁師弟の科挙受験……295
第五節　康有為と梁啓超の科挙答案……303
第六節　康有為と梁啓超の科挙改革論……308
おわりに……313

第三部　国民革命と大同思想

第一章　民国時期の康有為……319
はじめに……319
第一節　亡命時期の康有為……324
第二節　辛亥革命と康有為……355
第三節　袁世凱統治時期の康有為……388
第四節　討袁から復辟に至る時期の康有為……422
おわりに――五四運動と康有為……450
第二章　康有為と国民革命……464
はじめに……464
第一節　一九二〇年代の政治状況……471
第二節　康有為の政治見識……476
第三節　康有為の政治政策……480
第四節　康有為の孫文批判……486
第五節　呉佩孚の華誕と康有為……492
第六節　康有為の洛陽入り……499
第七節　康有為と呉佩孚の争論……507

第八節　康有為訪洛の意味……513
おわりに……520
第三章　国民革命と朱謙之の大同共産思想……524
はじめに……524
第一節　朱謙之の生涯と大同三部作の位置……525
第二節　孔子の思想としての大同共産思想……531
第三節　大同共産思想と孫文三民主義思想……537
第四節　朱謙之の大同共産ユートピア社会の真諦……545
おわりに……552
第四章　犬養毅「大同書序文」考……554
はじめに……554
第一節　犬養毅の「大同書序文」の波紋……555
第二節　犬養毅の「大同書序文」の内容と問題点……559
第三節　柏原文太郎の「大同書序文」の内容と問題点……562
第四節　徐勤の「大同書序文」執筆依頼の書簡……565
おわりに……572
初出一覧……575

あとがき……577
索　引（人名・事項・欧文）……左1